

令和 3 年 5 月 25 日現在

機関番号：82720

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13542

研究課題名(和文) 寺院組織と史料管理システム解明のための書誌学的研究 - 日本中世寺誌論の構築に基づく

研究課題名(英文) The bibliographic studies for elucidating temple organizations and their archival systems in Medieval Japan

研究代表者

貫井 裕恵 (NUKUI, Hiroe)

神奈川県立金沢文庫・学芸課・学芸員

研究者番号：40782868

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：多くの文書・記録・聖教史料を集積している中世寺院である東寺(教王護国寺)や関連する寺院の史料を取り上げ、中世寺院のアーカイブスの様相を、寺誌を中心に把握しようと試みた。さらに史料を統括する寺院組織として執行職に注目し、その職務とそこで収集された情報の利活用のありかたを明らかにした。これにより、中世寺院のアーカイブスの様相を、寺院組織と史料の保存と書承行為、すなわち寺院社会における情報の蓄積・授受・伝達のありかたを精査したうえで、寺誌の果たす役割について究明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本中世において、政治的・社会的・宗教的に重要な位置を占めた寺院では、膨大な史料(古文書・古記録・聖教など)が集積された。本研究課題では、こうした史料を題材として、従来の寺院組織論および寺院史料論の成果をふまえつつ、進展しつつある目録学と寺院史料調査の成果を積極的に取り入れて、新たな寺院史像を再構築しようとした。さらに、寺院組織とその史料管理システムという切り口から分析することで、寺院史料のもつ特質を析出し、寺院史料論の体系化を試みた。とくに、寺院に集積されるアーカイブズへの考察について、寺院の歴史叙述である寺誌に着眼して検討を加えたことは、本研究に独自の観点であるといえる。

研究成果の概要(英文)：There were many documents, records and historical materials of sacred religions in many temples of Medieval Japan. This research subject especially focused in the archives of Toji temple(東寺) and its related temples. I tried to grasp the aspect of the archives of Medieval temples, mainly in a book on temple history(寺誌). Furthermore, I focused on Shigyo-siki(執行職) which was the position as a temple organization that controls historical materials, and clarified the duties and how to utilize the information collected there. According to these considerations, it is possible to clarify the aspect of the archives of Medieval temples through these systems how transfer their information which was preserved and described historical materials stored, given, received and transmitted by religious society, and the fact that a book on temple history played an important role in their archives of temples in Medieval Japan.

研究分野：日本中世史

キーワード：日本中世史 中世寺院史 古文書学 聖教 寺院史料論 寺誌 アーカイブズ 史料論

## 1. 研究開始当初の背景

日本の中世社会において、真言宗をはじめとする顕密仏教は政治・社会・宗教・文化に重要な位置を占めていた。宗教権門の研究は、古くから寺院史研究として確立し、中世荘園史など寺院の経営のありかたに焦点があてられていった。その一方で、寺院に伝来した史料の包括的な調査が行われ、文化財指定や目録作成という段階を経て、近年研究に活用できる基盤が整備されてきた。

寺院史料調査の進展に伴い、従来の研究で取り上げられた寺院文書のみならず、寺院に伝来するすべての史料、縁起、修法などの次第書などの寺院記録・聖教類を含めた寺院史料論の体系化が提唱されるようになる(永村眞『中世寺院史料論』吉川弘文館、2000年、上川通夫『日本中世仏教史料論』吉川弘文館、2008年)。これを受けて、歴史学、仏教史、日本文学など寺院史料を扱う諸分野でそれぞれ個別的研究が蓄積されているが、扱う史料の膨大さゆえすべてを見渡した上で寺院史料総体として捉え体系化してゆくのは難しいのが現状である。

そこで、近年進展の目覚ましい目録学の成果を取り入れながら、寺院史料の総体を史料管理システムの視座から見渡したうえで、その特質を明らかにしようと考えた。さらに「目録」の要素をもち、寺院の文書・記録・聖教類からなり、寺院を構成する宗教・世俗両要素をもつ寺誌に着眼し、膨大な寺院史料の体系的把握の基軸としての側面を見出した。よって寺誌を中心とした寺院史料の体系化を構想しようと考えたのである。

寺院史料は、寺院における史料の類聚・編纂・書写という書承行為を通じて生成されていく。こうした営為のありようを浮かび上がらせることで、寺院におけるアーカイブズの形成とそれを生み出す寺院組織の様相を考察することを企図した。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本中世において政治的・社会的・宗教的に重要な位置を占めた顕密寺院に集積された史料を題材として、従来の寺院組織論および寺院史料論の成果をふまえ、近年の文庫研究および宗教テキストにおいて蓄積されてきた「目録」研究の手法を生かし、寺院史料調査の成果を積極的に取り入れて、新たな寺院史像を再構築することを目的に据えている。その膨大さゆえに手つかずの史料も多い寺院史料であるが、寺院組織とそこでの史料管理システムという切り口からそれらを分析することで、寺院史料のもつ特質を析出していき、寺院史料論の体系化を試みた。

## 3. 研究の方法

以上の目的のもと、本研究では、豊富な古文書・古記録・聖教類が多数伝存する東寺(教王護国寺)を中心とする有力な真言宗寺院を研究の対象に据え、以下の3つの視座を設けて考察を進めた。

### 東寺執行家の組織と史料管理システムの解明

古代以来、東寺執行は堂塔伽藍の管理など庶務的な職務を掌ってきた。東寺執行阿刀家には、京都国立博物館蔵「阿刀家伝世資料」文書・典籍が伝存しており、その職務日記として『東寺執行日記』がある。「阿刀家伝世資料」のうち文書は『阿刀文書』として知られているが、一方で「阿刀家伝世資料」典籍は近世史料が多くを占めており、未翻刻の多さゆえほとんど手つかず状況である。そのような状況ではあるが、内容は中世東寺の様相を伝えているものも多い。こうした史料を活用しながら、執行阿刀家の職務および寺院組織内部での位置づけなどについて考えた。このなかで、執行阿刀家における史料管理システムのありかたに注目し、中世東寺における情報の蓄積と利活用について検討を進めた。

中世東寺にかかる研究は、これまで「東寺百合文書」によって明らかとなる寺僧集団の歴史によって描かれてきたが、今後「阿刀家伝世資料」の研究活用が進めば、執行家を含む中世東寺総体の実像に迫ることが可能となるだろう。本研究では、その準備として執行阿刀家史料を研究資源化する前提として、執行職とその史料群の性格について論究した。

### 日本中世寺誌論の構築

膨大に集積される寺院史料は、寺院組織のなかで管理され、寺院運営に供されてきた。史料そのものの管理については、における東寺執行家を取り上げて検討したが、史料に記載された様々な情報(テキスト)をどのように整理し把握したのかについて、本研究では寺誌に焦点をあてて検討を加えた。寺誌は、寺の由緒や縁起を語る歴史叙述であり、堂塔伽藍や什物の管理に資する

側面がある。近年進展の目覚ましい目録学の成果を取り入れながら、寺誌における目録の要素に着眼した。

具体的には南北朝時代に東寺で編纂された寺誌『東宝記』をとりあげた。本書の編纂には、関連する諸寺院に集積された史料が用いられている。史料の類聚・編纂・書写という書承行為のありようを、寺院の組織と運営とのかかわりから究明することで、日本中世寺誌論の基礎的考察を進めた。

#### 中世寺院史料論の体系化に向けた書誌学的分析

において寺院史料の体系化を試みるなかで、寺院史料群としての性格を捉えるにあたり、書誌学的検討が前提となることを改めて実感した。豊富な真言密教聖教を有する「称名寺聖教」とその紙背文書の関係性について考察しようとし、聖教との比較事例として金沢文庫本とその紙背文書についての調査を始めたところである。また、この史料群は中世東国における真言密教の流入と展開の様相をうかがうのに好適であることから、真言密教に深く帰依した鎌倉幕府有力御家人安達氏をとりあげながら、その実態を究明しようとした。

以上3つの観点进行分析することにより、中世寺院におけるアーカイブズの形成と再生産の様相を捉えようと試みた。

## 4. 研究成果

### 東寺執行家の組織と史料管理システムの解明

京都国立博物館蔵「阿刀家伝世資料」の史料学的性格について論究し、執行家におけるアーカイブズを概観した(「中世東寺における執行家の職務について」(第4期第3回東寺文書研究会、東京大学、2019))。「阿刀家伝世資料」典籍は、近世写本がその大半を占めるが、中世に作成されたものの写しであったり、あるいは中世にさかのぼりうる内容をもつものが数多くある。その内容は文書・記録・聖教類にとどまらず、法律、文芸資料など多岐にわたる。こうした史料を生み出す東寺執行職の職務について考察した(「室町期における東寺と東寺執行家について」(国際日本文化研究センター共同研究会、オンライン、2020))。東寺執行職は南北朝期に大きな性格の変化のあったことがすでに指摘されているが、こうしたことは、執行家における史料の保存・書写・相伝のありかたと深くかかわっていることを指摘した(「阿刀家伝世資料からみた中世東寺の執行職」(「日本中近世寺社<記録>論の構築 日本日記文化の多様性の探究とその研究資源化」オンライン公開研究会、オンライン、2021))。

今後、まとまったかたちで翻刻がなされてこなかった『東寺執行日記』をはじめとする執行家関係史料を用いながら、中世東寺における執行家の役割を明らかにし、これまでの中世東寺研究のなかに位置付けていきたい。また、他の権門寺院における執行職のありかたとの比較研究の視角も取り入れ、中世寺院の運営における執行家の存在意義にも言及できればと考えている。

なお、この成果の一部として、中世東寺の史料管理のありかたを国外に発表した(Progress of Archival Technology and Historical Materials during the Medieval and Early Modern Period in Japan, International Conference: Technological Changes and Society, Wakayama University, 2019、大橋直義氏と共同発表)。

### 日本中世寺誌論の構築

東寺寺誌『東宝記』の写本を検討するなかで、寺誌の活用に大きな役割を果たしたのが東寺執行家本であることを見出し、その結果東寺執行家に着眼する視座を得た。に取り組むなかで、寺院史料における寺誌の機能と役割について考察を加えた。寺誌は数多くの文書・記録・聖教類を用いて編纂されるが、そうした編纂事業は多くの僧侶による史料収集・書写により達成される。史料の収集・書写事業を含む編纂事業のなかから、中世寺院における歴史意識の醸成とのかかわりを考察した。そのうえで、一旦成立した寺誌が、僧侶の寺院運営や修学活動のなかでどのように利活用されているのかについて究明した(「室町期における東寺と『東宝記』 東寺執行家を中心に」(国際日本文化研究センター共同研究会 2018))。今後、膨大な寺院史料を有する他の権門寺院の寺誌類を考察の対象として、日本中世寺誌論の構築を目指していきたい。

なお、この成果の一部として、中世寺院における寺院運営およびその信仰の様相と寺誌編纂の関係性を国外に発表した(Temple management and missionary activities in the Middle Ages

#### 中世寺院史料の体系化に向けた書誌学的分析

寺院史料のうち聖教類にはその裏側に紙背文書が伝存していることがよくある。紙背文書は、聖教生成の背景、具体的には書写者の環境や時代など、多くの情報をもたらしてくれる。「称名寺聖教・金沢文庫文書」は、中世東国における真言密教の流入と展開の様相をよく伝える史料群である。こうした史料の魅力について、広く一般の方にもお伝えすることができた(「国宝 金沢文庫文書データベース 公開記念特別展示 ようこそ 金沢文庫文書へ 中世の病と祈りを素材に」(神奈川県立金沢文庫展覧会、2020))。とくに中世東国における真言密教の展開について、同史料群を紐解きながら、鎌倉幕府有力御家人安達氏の果たした役割に注目し、その成果を展覧会を通じて一般の方にもお伝えした(特別展 安達一族と鎌倉幕府(神奈川県立金沢文庫展覧会、2018))。

また、聖教とその紙背文書の書誌学的検討を進めるなかで、比較検討として典籍(金沢文庫本)とその紙背文書の関係について考察を試み、共同で調査を行い、書誌学的検討を加えた(金沢文庫本の会「名古屋市蓬左文庫蔵『斉民要術』紙背文書について(上)」(『鎌倉遺文研究』45、2020.4)・同「名古屋市蓬左文庫蔵『斉民要術』紙背文書について(下)」(『鎌倉遺文研究』46、2020.10))。これに先立ち金沢文庫本について検討を進めており(「特別企画 金沢文庫本の世界」(神奈川県立金沢文庫展覧会、2019)、「金沢文庫 今に息づく日本中世「知」のアーカイブズ」(『書物学』16、2019))こうした成果に基づいて調査・研究を進めている。

今後は聖教ないし典籍とその紙背文書の関係について書誌学的検討を重ねていくことで、中世寺院における料紙の二次利用の営為を浮かび上がらせ、新たな紙背文書論を見据えていきたい。

なお、聖教史料のうち唱導資料について、歴史史料としての扱うことの可能性について考察を試みた(「歴史学からみた千字文説草」(『仏教文学』45、2020.4))。日本中世の寺院は、宗教権門として政治的に重きをなし、一方で学問や文芸の拠点として文化的にも重要な場であった。本研究がめざす寺院史料の体系化は、文学・思想・美術・宗教といった分野に分節されない中世「知の場」の復原をこの先に見据えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻 16
2. 論文標題 金沢文庫 今に息づく日本中世「知」のアーカイブズ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 書物学	6. 最初と最後の頁 39 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻 0
2. 論文標題 勸進・修造と唱導	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 顕われた神々－中世の霊場と唱導－	6. 最初と最後の頁 90 - 91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貫井 裕恵	4. 巻 0
2. 論文標題 総説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 安達一族と鎌倉幕府－もうひとつの鎌倉時代史－	6. 最初と最後の頁 4 - 5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻 なし
2. 論文標題 金沢北条氏における書様 「唐様」をめぐる	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 唐物KARAMONO 中世鎌倉文化を彩る海の恩恵	6. 最初と最後の頁 43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻 なし
2. 論文標題 建久の東寺講堂仏舎利出現をめぐる叙述について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 運慶 鎌倉幕府と壺絵伝説	6. 最初と最後の頁 112-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 貫井裕恵・大橋直義
2. 発表標題 Progress of Archival Technology and Historical Materials during the Medieval and Early Modern Period in Japan
3. 学会等名 International Conference: Technological Changes and Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貫井裕恵
2. 発表標題 中世東寺における執行家の職務について
3. 学会等名 第4期第3回東寺文書研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貫井 裕恵
2. 発表標題 歴史学からみた千字文説草
3. 学会等名 仏教文学会例会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 貫井 裕恵
2. 発表標題 室町期における東寺と『東宝記』 東寺執行家を中心に
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究：応永・永享期文化論2018年度12月研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 貫井 裕恵
2. 発表標題 Temple management and missionary activities in the Middle Ages of Japan
3. 学会等名 International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650" (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 神奈川県立金沢文庫（貫井・文責）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫	5. 総ページ数 6
3. 書名 特別企画 金沢文庫本の世界(神奈川県立金沢文庫展覧会解説補助冊子)	

1. 著者名 神奈川県立金沢文庫（編集、分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫	5. 総ページ数 112
3. 書名 安達一族と鎌倉幕府－もうひとつの鎌倉時代史－	

1. 著者名 神奈川県立金沢文庫（共編、分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫	5. 総ページ数 112
3. 書名 顕われた神々－中世の霊場と唱導－	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------